

事例5 単元「進んで話し合い、発表しよう」

「友だちの考えとくらべてみよう！」

国語 第3学年

輪島市立大屋小学校

1 事例の概要

本年度、本校は、県の「活用力向上推進モデル校」の指定を受け、4月から活用力（思考力・判断力・表現力）の向上を目指し、授業の改善に取り組んできた。

本校の児童は、県の基礎学力調査や全国学力・学習状況調査の分析の結果、基礎基本の学習については概ね定着しているものの、自分の考えを書くような問題に対しては、極端に無解答率が高くなる傾向がある。それは、問いに対して、ねばり強く考え、うまく自分の思いや考えを伝えることが、苦手であるためと思われる。

そこで、本校では、研究主題を『知識や技能を身に付け、生活や学習に活かす子の育成』とし、副題を「自分の考えを持ち、たがいに学び合う活動を通して」と定めた。また、目指す児童の姿を「自分の考えを持ち、相手にわかるように伝えようとする子」として、授業改善に努めている。「相手にわかるように伝える」ことの前提として、「自分の考えを持つ」必要がある。本校では1学期から、「書く」ことを中心として、自分の考えを持つ取り組みを行ってきた。書くことによって、考えをまとめ、自信を持って、それを表現できる児童を育てる。そのことで児童同士の意見交流を活性化し、「活用力」を向上させる。

今回の事例も、ワークシートを用いて、まず自分なりの理由・考えをまとめ、それを小グループで意見交流している。さらに発表によって友だちの考えを聞くことで、自分の考えを深め、判断力や思考力を高めようとした実践である。

A-1 学校研究

2 実践内容

（1）単元の見どころ

- ・「分類」について、互いの考えの相違点や共通点を考えながら、話し合う。
(話すこと・聞くこと ウ)
- ・調べた内容が分かりやすく伝わるように、筋道を立てて丁寧な言葉使いで話すことができる。
(話すこと・聞くこと ア)
- ・その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

（2）指導上の工夫点

① 考えを持つために

まず、「自分はどう考えたのか」ということがなければ、話し合いは成立しない。単に「話す・聞く」力だけではなく、「考える力」が基盤となる。そこで、考えを持つために、一人一人が分類をする時間を十分にとった。その際、どのような観点で分類したのか分かるようにワークシートに分類の観点を記入し、自分の考えをまとめるようにした。また、話し合いの時にも、自分の考えたことや思ったことを書くことで、自分の考えとの相違点や共通点を整理し、発言しやすいようにした。

② 話し合える「場づくり」

自分の考えを友だちに聞いてもらえるという安心感、温かく伝え合う雰囲気も大切であ

る。「聞き方」に、頷く、相手を見て、最後までなどの基本的な姿勢、「話し方」に、声の大きさ、話す速さなど音声面の技能を指導しながら活動をさせる。さらに、一斉学習ではなかなか発表できない児童も見られるので、話す・聞く機会を多くもつために、グループでの活動を取り入れた。

③ 「伝え合い」の基盤を育てる

どのように話せばいいのか、何を聞けばいいのか分らないと「話し合い」も活発にならない。筋道を立てて表現できるように、接続詞を使って話す、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら聞くなど、活動の仕方を明確にした。また、「話し合い」の見本を作成し、他教科においても「話し合い」の日常化を図った。

B-1 単元計画

B-2 話し合いの見本

3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の意識の流れ	支援○ 評価◎ 留意点・
3 話し合う	○分類のしかたについて話し合おう ・まず、<u>体のもように分けて、それからくつをはいているか、いないかで分けた。</u> ・<u>体のもように分けたところが同じです。でもわたしは、服を着ているねこと着ていないねここに分けた。</u> ・分け方がぼくと全然ちがいます。ぼくは、はじめに、<u>ぼうしをかぶっているか、いないかで分けた。</u>その次に、目をみて分けた。	・話し合いがしやすいよう、相違点や共通点をワークシートに書く。 ◎友だちがした「分類」について、自分との相違点や共通点を比べながら話し合っている。 ウー（イ） （発言・観察） ○どの観点で分類しているかを書いて、比べやすいようにする。

C-1 指導案

C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ・4月から、ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫を図り、「話す・聞く」機会を多く取るようにしてきたことで、話すことに抵抗感を感じていた児童も少しずつ自分の考えを言えるようになった。
- ・グループの話し合いの仕方や発言の仕方を明確にし、「書く」ことで自分の考えをまとめるようにしたことで、筋道を立てて順序よく話すことができた。
- ・他教科でもグループでの話し合いが上手になり、全員の考えを聞いて、まとめ、グループの考えとして発表できるようになってきた。

(2) 課題

- ・話し方や聞き方の基本的な姿勢は意識できているが、声の大きさや話す速さなど、音声的な技能面はまだ十分でない。発表の声が小さく、全体になかなか広まらない。
- ・話し合いが、表面的になり、友だちの考えを聞いて、より深めるという子ども同士の高め合いが見られない。発言をつなげていく取り組みをしていかなければならない。